

林業福島

No. 738

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山善継



2

2026

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 山里の仲よし夫婦



次世代への森林・林業の継承のために

福島県市長会会長
白河市長 鈴木和夫

私たちのふるさと福島県は、県土の約七割が森林であります。その豊かな森林は、四季折々の美しい景観を織り成し、山から川、そして海へとつながり、豊かな恵みの源となっています。私たち県民一人ひとりの心の原風景には、県内各地の美しい山々が存在するものと思います。『林業福島』を御覧の皆さまには、この豊かで美しいふるさとを守るため、県内各地域の林業振興と森林管理に多大な御尽力いただいておりますことに、心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

近年、気候変動による大雨や大規模な山林火災など災害が激甚化・頻発化やクマ被害の増加など、より一層の森林の環境整備に対する取組が重要となっております。森林には、自然災害の防止、生物多様性の保全、二酸化炭素の吸収による地球温暖化防止など、多くの役割が存在し、我々はその恵みを受けてきました。

しかしながら、林業の担い手不足や効率的かつ適正な森林整備の推進、木材の安定供給体制の構築、物価高騰等により影響を受けている林業者等への支援など、様々な課題がある中、森林・林業・緑化協会をはじめ林業団体の皆さまには、豊かで活力ある森林を次の世代へ受け継ぐための事業に取り組んでいただいております。

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故から約十五年が経過し、今年四月からは、第三期復興・創生期間がスタートします。本県の森林・林業の再生に向け、帰還困難区域を中心に森林整備や里山・広葉樹林再生への取組や福島県産材の活用等の推進など未だ多くの課題が山積しておりますが、各自治体においては、この豊かな森林資源を活かし、林業が産業としての基盤を再生・強化されることによって、森林の適切な維持管理が次世代に継承され、とりわけ山村地域に産業と雇用を生み出すことを期待しています。

県市長会といたしましても、県だけではなく東北市長会や全国市長会と連携しながら、福島の森林林業の一日も早い復興と再生を目指し、国への積極的な働きかけなど、様々な取組を進めてまいりますので、今後とも一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら

次世代への森林・林業の継承のために

- 福島県市長会会長 白河市長 鈴木和夫… 1
- 林野火災防止に努めましょう…………… 2
- 林業研究センターだより…………… 3～4
- 森林環境教育実践者研修会を開催しました… 5
- 女性に向けたイベント「木と発酵と、手しごとと。」を開催しました…………… 6

「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム

- ～福島の森と木の親子体験オンライン教室2025～の開催… 7
- 林業アカデミーふくしま研修日誌⑨…………… 8
- 普及指導員通信…………… 9
- 福島県林業労働力確保支援センターだより… 10
- 木の文化を育む⑧…………… 11
- 木材市況・ふくしま東西南北…………… 12
- はなしのひろば・お知らせコーナー…………… 13

林野火災防止に努めましょう

山火事を起こすも防ぐも 私たち

福島県森林保全課

○林野火災が多発する季節

冬から春にかけて林野火災（山火事）が多発する傾向にあります。

これは、林内に落ち葉や枯れ草など燃えやすいものが堆積していることに加え、乾燥した強風など自然条件が要因とされ、ひとたび火事が起きると短時間に燃え広がる恐れがあります。また、暖かくなるこの時期は農作業が始まる時期とも重なり、田畑や家屋周りの片付けなどで火を使うことが原因として考えられます。

令和六年に県内で発生した三六件の林野火災のうち、三三件が一月から五月の間に発生しており、出火原因のほとんどが火の不始末、不注意等による人為的なものが要因となっています。（森林保全課集計）

○岩手県大船渡市で発生した大規模林野火災

令和七年二月二六日、岩手県大船渡市赤崎町合足地内で発生した林野火災は、折からの空気の乾燥に加え、地形等が災いして、瞬く間に燃え広がりました。最終的に同年四月七日に鎮火が確認されましたが、市の面積の約一割に相当する三、三七〇ヘクタールの森林が焼損し、二〇〇棟を超える建物にも被害が及び、一名の尊い人命が失われました。

渡市赤崎町合足地内で発生した林野火災は、折からの空気の乾燥に加え、地形等が災いして、瞬く間に燃え広がりました。最終的に同年四月七日に鎮火が確認されましたが、市の面積の約一割に相当する三、三七〇ヘクタールの森林が焼損し、二〇〇棟を超える建物にも被害が及び、一名の尊い人命が失われました。

○大船渡市の大規模林野火災を教訓として

林野火災注意報・林野火災警報とは岩手県大船渡市の大規模林野火災を受け、国により検討された結果、林野火災多発期（一月から五月）に一定の気象条件に達した場合、「林野火災注意報」や「林野火災警報」を発令し、発令中の「屋外における裸火（覆いや囲いがなく直接空気中にさらされている火）で火の粉が飛散する行為」を制限することで、林野火災予防の実効性を高めることとされています。

れました。なお、林野火災注意報の発令中は罰則の伴わない努力義務が課せられますが、林野火災警報の発令中で、制限に従わない場合には罰金や拘留に処される場合があります。林野火災注意報・林野火災警報の発令指標（例）

- 各種作業現場等においては、以下の事項を遵守してください。
- 1 たき火（「煙」や「火」が出る行為）をする際には、消防署へ届出を行うこと。
 - 2 枯れ草等のある火災が起りやすい場所では、たき火をしないこと。
 - 3 たき火等火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること。
 - 4 強風注意報、乾燥注意報、林野火災注意報、林野火災警報又は火災警報の発令時には、たき火、火入れをしないこと。
 - 5 火入れを行う際は市町村長の許可を必ず受けるとともに、あらかじめ必要な防火対策を講じること。
 - 6 たばこは、指定された場所です喫煙し、吸いがらは必ず消すとともに、投げ捨てないこと。
 - 7 火遊びはしないこと、また、させないこと。

（1）前日までの三日間の合計降水量が一ミリ以下、かつ、前三〇日間の合計降水量が三〇ミリ以下である。

（2）前日までの三日間の合計降水量が一ミリ以下、かつ、気象庁が乾燥注意報を発表している。

・林野火災警報
気象庁が強風注意報を発表し、かつ、前記（1）（2）のいずれかを満たす場合に発令されます。

県内でも令和八年一月一日から、各消防本部において「林野火災注意報」「林野火災警報」の運用が開始され、林野火災注意報発令中の場合、火気の使用の制限について努力義務を課すこととなりました。なお、各市町毎の発令状況については、広域消防本部等のHP等で確認してください。

○林野火災を起こさないために

林内および森林周辺の宅地や農地、

森林は、私たちの暮らしの欠かせない水源涵養や県土の保全など、大切な役割を担っています。林野火災によって失われた森林を元の姿に回復させるまでには、何十年もの年月と莫大な費用を要します。豊かな森林を着実に次の世代に引き継ぐために、県民の皆さん一人一人の御協力をお願いします。

林業研究センターだより

バークを活用した 平板資材の開発について



バーク板を施工した歩道

福島県林業研究センター

林産資源部 主任研究員

長 峯 秀 和

1 はじめに

福島県内の木材加工施設では、原木を製材品やチップに加工する過程で多くの樹皮（バーク）が発生しており（図―1）、その量は、県全体で年間一〇万ト以上にのぼるといわれています。東日本大震災に伴う原子力発電所事故が発生する前は、こうしたバークは、ボイラー燃料や堆肥の原料などとして利用され、地域内で循環する身近な資源として活用されてきました。しかし、事故後は放射性物質に対する不安が広がったことから、バークの利用が進みにくくなりました。堆肥などとして使用できる基準を満たしている場合で

あっても、安全に使えるという認識が十分に広がらず、結果として活用されないケースが見られています。このような状況を受け、これまでの使い方にとらわれず、バークを安全に活かす新たな利用方法について検討しました。

バークの新たな利用方法として、バークをセメントで固めた平板状の資材（以下、バーク板）を試作しました。これは、安価な入手しやすいセメントを用いることで、バークを身近な材料として活用することを目的としています。次に、このバーク板が歩道敷材として利用できるかを検討するため、基礎的な性能試験を行いました。試作にあたっては、成

形時の安定性や扱いやすさを確保するため、バークと混ぜるセメントおよび水の配合条件について確認しました。あわせて、歩道敷材として重要と考えられる表面放射温度、透水性、衝撃吸収性について試験を行い、現在、歩道敷材として一般的に使用されているコンクリート製透水平板（図―2）との比較を行いました。



図―1 木材加工施設等で発生したバーク

2 バーク板の試作

バークとセメント、水の配合について、いくつかの条件で試作と検討を重ねました。その結果、重量比でバークとセメントを三・七、セメントと水を一・一・五とした条件では、成形時に崩れにくく、安定した形状のバーク板を作製することができました（図―3）。また、この配合条件で作製したバーク板は、表面の見た目も比較的均一で、歩道敷材として必要な形状を保てるのが確認されました。試作したバーク板（三〇〇×三〇〇×六〇^{ミリ}）の重さは約三キログラムで、同じ大きさのコンクリー



図―2 コンクリート製透水平板



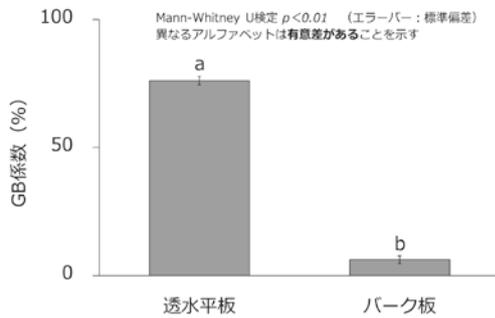
図-3 試作したパーク板

ト製透水平板（約一〇キログラム）に比べて大幅に軽くなりました。この軽量性により、運搬や敷設作業時の取り扱いが容易となり、施工時の作業負担の軽減や施工効率の向上が期待されます。さらに、施工機械や人員への負担が小さくなることから、小規模な補修工事や部分的な更新にも適した材料であると考えられます。

3 歩道敷材としての性能の比較

パーク板を歩道敷材として使用した場合の効果を確認するため、いくつかの性能について、コンクリート製透水平板と比較しました。夏の昼

間に表面温度を測定したところ、パーク板は透水平板よりも表面温度が低い傾向を示しました。このことから、夏場に路面が高温になるのを抑え、歩行者が感じる暑さや負担を軽減できる可能性があることが分かりました。また、雨水の通しやすさを調べたところ、パーク板は透水平板よりも水が早く抜ける傾向が確認されました。雨の日でも水たまりができにくく、歩行しやすい歩道敷材としての利用が期待されます。さらに、歩行時の安全性や歩き心地を調べるため、衝撃の伝わり方を比較したところ、パーク板は衝撃を吸収す



※GB係数 (%) = 落下したゴルフボールが跳ね返った高さ ÷ ゴルフボールを落下させた高さ × 100
衝撃吸収性の指標であり、値が小さいほど衝撃を吸収しやすい。

図-4 衝撃吸収性試験における跳ね返り高さの比較

る性質を示しました（図-4）。一方で反発力は透水平板とほぼ同程度でした。

これらの結果から、パーク板は市販の透水平板と比べて、表面温度の上昇抑制、排水性、衝撃吸収性といった点で特徴を有していることが明らかになりました。これらの特性は、夏季の高温環境下や雨天時における歩行者の快適性および安全性の向上に寄与するものであり、公園内歩道や生活道路など、利用者の多様な歩行環境に適した材料であると考えられます。

4 まとめ

本研究では、パークを主材料としたパーク板を試作し、歩道敷材としての適用可能性について検討を行いました。その結果、パーク板は市販のコンクリート製透水平板と比較して、夏場の表面温度が上がりやすく、雨水を通しやすいことに加え、歩行時の衝撃をやわらげる特性を有していることが確認されました。これらの性能は、歩行者の快適性や安全性の向上に寄与するものであり、歩道敷材に求められる基本的な性能

を満たしていると考えられます。現在は、実際の利用を想定し、長期間使用した場合の状態を確認するため、郡山市内の逢瀬公園緑化センター内の歩道の一部にパーク板を敷設し（図-5）、経過観察を行っています。お近くにお越しの際には、ぜひパーク板を使った歩道を実際に歩いていただき、歩きやすさなどについてのご感想をお寄せください。



図-5 パーク板で施工した歩道

森林環境教育実践者研修会を 開催しました

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会 緑化推進局

福島県では、豊かな森林を健全な状態で未来に繋げるために、福島県森林環境税を活用して、森林環境教育を推進しています。

当協会では、令和二年より県から「森林環境教育支援事業」を受託して、効果的な森林環境教育を実施するためのワーキンググループの運営やホームページ「KIZUKIの素」の運営・広報、実践者研修会の開催等に取り組んでいます。

その中で、今年度は「学校周辺にある身近な地域資源を活かしたフィールドワーク」をテーマとして、弦間一郎さん（福島市小鳥の森レンジャー）を講師にお招きして、昨年十一月七日（金）に「森林環境教育実践者研修会」を開催しました。今回は、実際に森林環境学習に取り組む、弦間さんが特別講師を務める「二本松市立塩沢小学校」にご協力をいただき、四年生の授業を見学させていただきました。

塩沢小学校では、毎年四年生が「総合的な学習の時間」に年三回、森林環境学習に取り組んでいます。今年度の一回目は水源地、二回目は安達太良山登山、そして今回見学した三回目は学校周辺の地形や歴史、植生についての学習でした。

まず、フィールドワークでは、安達太良山で見た植物と学校周辺にある植物を比較しながら「里山の植生」を観察し、マメガキやクリ、ホオノキの大きな葉などに触れて、人の暮らしに役立つ植物が多いことに気づきました。

続いて、教室に戻ってフィールドワークを振り返り、学校が位置する高台が山の恵みに支えられた豊かな土地であることに触れ、郷土愛を育む構成の授業となりました。

午後からは、二本松市塩沢住民センターに場所を移し、弦間さんからフィールドワークのポイントやねらいをお聴きした後、受講者がグルー

プに分かれ、活動の課題や事例についての意見交換を行い終了しました。

今回、快く研修会にご協力してくださった二本松市立塩沢小学校の皆様と講師の弦間一郎さん、ご参加の皆様にご場をお借りして御礼申し上げます。

森林環境教育は、水源涵養、災害防止、林産資源の維持、生物多様性などSDGsの観点からも重要な役割を担っています。この研修会で得られた知見を活かして、県内各地域

で、児童生徒が森林に親しみ、豊かな森林を守る意識を醸成する森林環境教育活動がより活発に取り組みられることを期待いたします。



クリを拾う児童



午後の講義の様子

女性に向けたイベント 「木と発酵と、手づくりと。」 を開催しました

(公社)福島県森林・林業・緑化協会
福島県林業労働力確保支援センター

令和七年十二月六日(土)に、女性に向けたイベント「木と発酵と、手づくりと。」を開催しました。このイベントは、当協会が実施する森林・林業担い手育成事業の一つとして、森林や林業に興味関心のある女性に向けて見学ツアーやワークショップなどを開催するもので、年二回ほど行っています。

今回のイベントは、木や森の恵みを生かして、手しごとで作る醤油蔵・酒蔵の見学と、発酵の産物でもある珈琲のワークショップを行いました。案内チラシや当協会のウェブサイトのほか、友人・知人からのご紹介から情報を得

た計十二名の方にご参加いただきました。

① 鈴木醤油店(天栄村)見学

六代目の鈴木良浩さん・洋子さんご夫妻にご案内いただき、醤油蔵を見学しました。こちらの蔵では、創業当時の木桶を使い、昔ながらの製法で丁寧に醤油づくりが行われています。蔵内に並んだ木桶には、「蔵付き酵母」と呼ばれるフワフワとした酵母がたくさん付いていて、甘く優しい香りを漂わせています。木製の麹蓋と石造りの室で麹づくりを行う蔵は、今では全国でも十軒に満たないとのこと。炭火や

ストーブで温度管理を行い、殺菌には自宅のりんごの生木を焼いた煙を用いるなど、木材を活かした道具や設備を、これからも大切にしていこうです。

② 仁井田本家(郡山市)見学

営業課の武石優大さんにご説明いただきながら、酒蔵を見学しました。蔵内には、自社林から伐り出したスギを使って職人達の手で一つつ作られたという木桶が並び、耳を澄ますとプチプチと発酵する音が聞こえてきます。木桶の端材も、桶の蓋やミツバチの巣箱にするなど無駄なく使用しているとのこと。自社林の恵みを生かし、代々守り続けてきた湧き水と社員自らがける無農薬の米づくりにより、安全で安心な「しぜんしゅ(自然酒)」づくりを行っています。見学の最後には、ご厚意により、新酒の完成を告げる年に一度の杉玉交換に立ち会わせていただきました。

③ 発酵と珈琲のワークショップ (風流のはじめ館・須賀川市)

須賀川市在住の「kajitsu(佳日)」店主・鈴木裕美さんを講師に迎え、一本の木からコーヒーになるまでのお話や、おいしいコーヒーの淹れ方を学ぶワークショップを行いました。産地や焙煎による特徴、発酵方法による風味や香りの違い、ドリップの方法、味覚の表現などを、スライドを用いて丁寧に説明していただきました。鈴木講師による実演のあと、同じ豆を使って一人ずつ淹れて、味の違いを飲み比べながら体感しました。

関係者の皆様のご協力により、普段何気なく口になっている素材が、人の手によってどのような知恵と工夫のもとにつくられているのか、その工程に木や森、自然がどのように関わり、生かされているのかを、体感しながら学ぶ貴重な機会となりました。

これからも、日々の暮らしと木や森とのつながりを感じられるようなイベントを開催していけたらと思います。



鈴木醤油店(天栄村)の見学



仁井田本家(郡山市)の見学



珈琲ワークショップ(須賀川市)の様子



一人ずつドリップして味の違いを体感します



十八代蔵元の仁井田社長と、新しい杉玉とともに

「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム」 「福島の森と木の親子体験オンライン教室2025」の開催

(一社)全国林業改良普及協会(事業受託団体)

本シンポジウムは、「森林・林業再生に向けた普及啓発事業」(林野庁)により、福島の森林・林業の再生に向けて、森林内の放射性物質の動態や林業再生に向けた取組など、これまで得られた科学的知見などを分かりやすく伝える目的で二〇一四年から開催され、二〇一九年から幅広い世代へ情報を発信するため、親子を対象に、親も子も一緒に楽しみながら体験・学習できるように工夫して実施しています。今年度は十一月十五日に「東日本大震災・原子力災害伝承館」(双葉町)からライブ配信を行い(写真1)、福島県や首都圏を中心とした全国五〇〇組の親子等約一、三〇〇人の参加がありました。

参加者は、各家庭に事前配布されたなめこ栽培キットを約二週間前から育てながら、配信当日を迎えました。当日の配信では、①福島の森を守る、②福島の森のハカセになろう(森林内の放射性物質の状況の解説)、③きのこの不思議(なめこ生産現場の解説、生産者との交流等)、④森と木に親しもう(各家庭に配布した木工体験キットの紹介、森林体験施設や農林水産省eNetチャンネル内の動画コンテンツ「福島のもり応援隊」の紹介)の四つのプログラムを行いました。

今年度は、参加者の参加型要素を高めるため、すべての講義の中に、「YouTubeのチャットの「アンケート機能」を使い、チーム対戦型のクイズを取り入れました(回答をクリックして投票する。写真2〜4)。チーム得点の中間発表と最終発表を行うことで最後まで参加者が問題意識を持って取り組むことができたと考えています。終了後に行ったアンケートでは、「チームに分かれてクイズをやったことが燃えた(子)」、「クイズが盛り上がりすぎており、子供の興味を保つ工夫があった(親)」等、大変好評でした。また、福島県外の参加者からは、「放射線は目に見えないから知らなかったけど、実験を通して、空気中にも飛んでいることを知れた(子)」、「オンラインと体験キットを通じて、参加者同士がつながっている感覚があった。もともとみんなに知ってほしい(親)」、「配信の後、家族で福島に遊びに行つたのが楽しかった。また行きたい(子)」等の福島を応援する声が非常に多く寄せられました。福島県内の参加者からは、「住んでいる福島県のことや、森やきのこのことが分かって良

かった(親・子)」、「なめこがおいしかった(子)」、「なめこ栽培や木工作りをしていた時の、子どもたちのキラキラした目の輝きが忘れられない(親)」、「林業は森林の多様な機能を守るための大切な活動であると改めて認識した(親)」等が寄せられました。

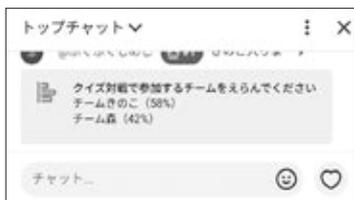
最後になりましたが、東日本大震災・原子力災害伝承館、福島県、双葉町、浪江町、いわき市、千葉県流山市には、告知チラシの配布等、多大なるご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。



▲配信映像等は
こちらから



1: 配信風景



2: チーム分けの結果(チャット欄)



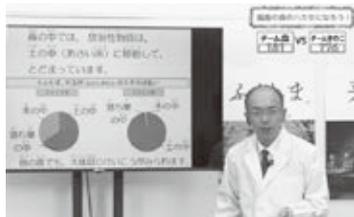
3: クイズの設問画面



4: 田人林業研究会下條氏
(参加者の回答結果のシェア)



5: アメリカ屋鈴木氏



6: 森林総合研究所篠宮氏
(画面右上にはチームの得点も表示)



7: 加茂農産加茂氏
(クイズ設問の投げかけと解説)



8: 司会者の2024ミス日本みどりの大使
安藤氏 (最終結果発表。接戦!)

林業アカデミーふくしま研修日誌 ⑨



〇十二月の研修内容

十二月は実習中心の研修が多く、チェーンソー技術では、現場での実践的な伐倒・造材を行いました。また、今年の締めくくりとして筆記試験を行いました。

●森林・林業に関する幅広い「知識」の習得

「林業ICTと森林GISの基礎」
GNSS（全球測位衛星システム）を使用した高精度かつ簡易的な測量とGISの基本操作を学びました。QGIS操作実習では、提案の図面を作成し、森林所有者に説明するという想定で発表を行いました。

「森林・林業政策」

林業に携わるうえで必要となる森林法などの関係法令や森林・林業政策について学びました。研修では「伐採及び伐採後の造林の届出書」の作成演習を行い、その根拠となる森林法や地域森林計画について理解を深めました。

「樹木学、樹木調査」

種子等による樹木の識別について、樹木の種子と竹を活用した門松作りも交えながら理解を深めました。門松の材料は林業研究センター

敷地内で現地調達し、使う植物を学びながら作成しました。

●森林施業「技術」の習得

「林内路網（森林作業道作設実習）」
今回の作業道の作設実習では、両脇に立木があり作業範囲が限られるような実践的な環境で、表土のすき取り、心土の掘削と埋め戻し、転圧などを行いました。

「高性能林業機械運転転技術」

プロセッサ、グラブプル、フォワードの操作実習を初めて現場で行い、作業道敷や現地土場等の狭い場所で作材、搬出、運搬を実践することができました。

「チェーンソー伐木造材技術」

今回の実習では初めて現場での造材を行い、丸太にかかる圧力を予測できずにチェーンソーのバーが挟まれたり、造材した断面がきれいできず何度も手直ししたり、研修生達には現場での作業の難しさを実感していました。

「つる切り、除伐、枝打等」

良質材の生産に必要となる枝打ち実習を講師が所有するスギ林で行いました。地表から二層程度までの手ノコでの枝打ちと、はしごを掛けて三層四層の枝打ちも行いました。

「広葉樹伐木造材技術」

広葉樹の基本的な伐木技術を学ぶため、三島町の広葉樹林において伐採実習を二日間行いました。広葉樹の硬さ、重心の見極め、枝の張り方や裂け上がりのリスクなど、様々な状況を考慮して伐倒を行いました。

●インターンシップの実施等

「社会人教養（メンバーシップ研修）」
林業は数人の作業班で活動するため、メンバーとしての役割の重要性について、実習を通して学びました。

「筆記試験」

十二月最終日には二〇二五年の振り返りとして、筆記試験を行いました。今まで学んできたことをしっかりと復習し、何度でも振り返ってほしいと思います。

〇研修生の感想

林 勇佑（はやし ゆうすけ）

アカデミーに入学して九か月が経ち、日々、林業の奥深さと自分自身の成長を強く実感しています。

十二月の研修で特に印象に残っているのは、初めて広葉樹の伐倒を行ったことです。針



広葉樹の重心の見極め



作業道作設実習

葉樹とは異なり、広葉樹は木の硬さや繊維の密度が違うため、チェーンソーを入れたときの感覚や切り方もまったく異なりました。同じ「伐倒」という作業でも、樹種によってこれほど差があることに大きな衝撃を受け、基礎知識だけでなく現場経験の重要性を痛感しました。

また、バックホーの操作は五月に資格を取得してから限られた時間の中で、道をならす作業や抜根処理まで行えるようになり、自身の成長を実感できました。現場での判断力や安全への意識も、この実習を通して身についたと思います。

九か月間の学びを通じて、林業は決して簡単な仕事ではありませんが、その分、やりがいのある仕事だと感じるようになりました。今後は、これまでに学んだ基礎と経験をさらに深め、より安全で効率的な作業ができる林業従事者を目指して努力していきたいです。

令和7年度過疎・中山間地域振興事業 「農山村地域資源利活用事業」への取組

福島県農中農林事務所
林業普及指導員 五十嵐 正 徳

1 はじめに

管内の森林率は約60%であり、人工林・天然林とも豊富な森林資源を有しています。スギを主体とする人工林の多くは主伐期を迎え、木材生産に資するとともに県民の快適な生活環境を築くための貴重な資源として重要な役割を果たしています。

しかし、中山間地域では人口流出や少子高齢化に伴い集落機能が低下し、適切な森林管理にも支障を来しています。このことから、里山の未利用森林資源を再考し、県中地域の気候風土に結びついた特色ある山の恵みを活用するため、森林資源の利活用に関するセミナーとワークショップを開催しました。

2 参集範囲

林業研究グループ、もりの案内人の会、地域おこし協力隊、林業事業体、市町村職員、精油取扱者 等

3 第一弾「森林活用セミナー」

8月5日に石川町にある一般社団法人ひとくらすを会場に開催し、南会津町で地域の樹木を活用した精油の事業を展開している株式会社一十八日の宝力絢代表取締役を招いて講演頂きました。

また、クロモジの増殖技術の研究開発について、林業研究センターの研究者から情報提供を受けました。さらに、石川町で伐採されたヒノキの枝葉を利用し、精油の抽出作業の実演を行いました。

4 第二弾「地域森林資源活用ワークショップ」

10月15日に第一弾と同じ会場で実施しました。この日は、阿武隈山系で採取したカヤの実を利用し、精油の抽出体験を行いました。さらに、郡山市内でアロマショップを営む星順子さんの指導により、数種類の樹木精油からオリジナルブレンドアロマづくりを体験しました。

5 参加者からの意見・感想

各々の回でテイスティング（香りを試嗅）した県中地域の樹木由来の精油について、参加者から好評価を得ることができました。「多くの人が集まると新しい発見が生まれると感じた。良い取り組みが出来ると感じた。実用化を検討したい。」といった建設的な感想がありました。

6 県民への周知と今後期待される効果

今回の取り組みについて、第50回福島県林業祭において来場者へ成果を紹介するとともに精油のテイスティングも行いました。その結果、年代や性別を問わず、香りへの関心が幅広いことがわかりました。

管内には様々な森林由来の植物を利用して各々活動している方がおられます。このような機会を通じて参加者相互の情報共有が図られ、より幅広いネットワークが形成されるとともに、これまで利用されてこなかった樹木や林床植物が注目され、今後、様々な用途に活用されることで過疎・中山間地域の活性化の一助になることを期待します。



図-1 森林活用セミナー



図-2 地域森林資源活用ワークショップ

林業担い手確保のための取組

福島県林業労働力確保支援センターだより

◎はじめに

当センターは、担い手の確保・育成・定着を目的に、就業希望者の就業促進のための様々な支援をしています。今回は、今年度の林業担い手確保のための取組について紹介します。

◎雇用管理研修会・雇用管理改善相談会

全国森林組合連合会との林業就業支援事業（雇用管理改善）委託契約に基づき行うもので、林業事業者の雇用管理の改善を進め、林業の就業と職場定着を促進することにより、林業労働力の育成・確保を図ることを目的としています。

今年度の第一回目は、十一月十三日に南東北総合卸センター中会議室を会場に行い、経営者や雇用管理担当者等十名の参加がありました。



雇用管理研修会の開催状況

講師は、長岡社会保険労務士事務所代表で特定社会保険労務士の長岡聡氏で、「林業就業者の確保・定着のための実践的戦略研修」と題して講演をいただきました。

ました。

「採用活動は、『①知る②興味を持つ③体験する④定着する』につきます。まずは、知って興味を持ってもらうためには、地域広報、SNS、求人票、テレビなどを有効に活用するほか、民間求人サイトなどで魅力を伝えることが重要である。また、今は人手不足で採用ばかりに重点が置かれているが、人が入らない分、福利厚生面での充実を図り、辞めることを無くすことも大事である。」など、すぐにも実践できる例をあげ講演をいただきました。なお、これらは複合的に関係しているので、どれか一つだけの取組でなく、包括的な取組が重要であるとの話をいただきました。

研修会終了後には、同氏による雇用管理改善相談会を行いました。

◎林業就業支援講習の実施

厚生労働省の農林業職場定着支援事業（林業就業支援事業）により、全国森林組合連合会が委託事業として全国で実施しています。支援講習は、一日間講習と三日間講習、そして十二日間講習があります。今年度、本県では一日間講習と十二日間講習を実施しました。

①一日コース

一日間講習は、十一月二十二日（土）郡山市及び古殿町論田地区内において実施し、当日の参加は六名（全員県内）でした。参加者は熱心に伐採作業等を見

学するとともに、現場作業の就業者との意見交換では、就業に関する質問やアドバイスなど熱心に話しを交わしていました。

②十二日間コース

十二日間講習は、令和八年一月十五日（三〇日）に実施し、六名（県内三名、県外三名）の参加がありました。講習の内容は、林業に関する基礎知識・安全衛生講習・資格取得（チェーンソー・刈払機・小型車両系建設機械）・林業作業の実地講習・林業関係施設等の見学・職業相談で、就業に向けて大変充実したものとなりました。

◎就業ガイダンスの実施

①森林（もり）の仕事オンラインガイダンス

林野庁の「緑の雇用」新規就業者育成推進事業により、全国森林組合連合会が実施しているもので、今年度は、対面でのガイダンスの実施が見送られ、オンラインでの実施となりました。第一回は、十一月八日（土）に行われ、県外から三名の方の相談がありました。第二回は、令和八年二月三日（月）に実施されます。

オンラインで相談できますので、遠方の方で福島への林業への就業を考えている方や興味のある方は是非参加してください。

②森林（もり）の仕事ミニガイダンス

林業への就業希望者や森林・林業に



就業支援講習での伐採作業等見学（古殿町論田地区内）



森林の仕事ミニガイダンスでの相談対応（福島県林業祭）

興味関心のある方を対象に、林業就業についての情報提供や仕事の内容の説明を行う就業相談会です。今年度は、十月二十五日（土）に開催された林業祭において林業アカデミーふくしま研修棟にブースを出展し、就業についての情報提供や就業相談を行いました。

③森林（もり）の仕事就職ガイダンス

今年度は、令和八年一月三十一日（土）に、ビッグパレットふくしまを会場として、福島県森林組合連合会および磐城林業協同組合を含めて県内の十三事業者・団体の参加をいただきました。九名の参加がありました。各事業者・団体から直接雇用に関する話しか聞くことができる貴重な機会となり、就業を考えている方や興味のある方の参加がありました。

◎終わりに

これらの取組のほか、SNS等を活用した広報活動などにより、福島県の林業を担う人材の確保・育成・定着に積極的に取り組んで参りますので、今後当センターの取組に対してご協力ご支援をよろしく願います。

木の文化を育む⁸³

木彫の新しいカタチ

―組み立て式彫刻の可能性― (彫刻家 黒沼 令)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

木の文化を支える要素の一つに、芸術があります。木彫は木材を素材とした芸術であり、その表現は素材そのものに加え、制作技法によっても広がりを見せています。なかでも、独創的な組み立て式の彫刻は、緻密な技法を通して制作や構成に新たな視点をもたらし、作品の表現をより豊かなものに行っています。

○彫刻家としての歩み

木を素材に独創的な彫刻技法で人の形を表現する、彫刻家 黒沼令さん(郡山市)は郡山女子大学短期大学部の准教授として教鞭を執り、実技制作やアートを通じた地域文化の振興に取り組みながら、具象彫刻の制作を行っています。彫刻制作は高校時代に始まり、国画会展への出品を活動の軸として制作を継続し、「国画会展」や「岩手芸術祭」、「福島県総合美術展」などにおいて、数々の賞を受賞しています。

木彫の人物像に見られる緊張感のある構成と、内面性を感じさせる表情は、多くの場で評価を受けています。

○思索と行為

黒沼さんは、制作過程そのものを通して対象と向き合い、思索を深めていく姿勢を重視しています。その姿勢は、高校時代に彫刻を始め、彫刻に造詣の深い父の影響を受けつつ、粘り強く作品と向き合いながら制作を重ねる中で培われてきました。近作の大きい作品は構想段階のデッサンをせずに、頭部や手などの造形から着手し、その配置を手がかりに全体像を展開していきます。

黒沼さんの木彫は、一つの木材から形をつくる一木造りに加え、寄せ木や組木といった技法も取り入れることで、造形の可能性を広げています。こうした思索と制作行為を往復する中で生み出された人物像は、特定の物語や解釈を一方的に示すもの

ではなく、鑑賞者それぞれが自身の感覚や記憶と重ね合わせながら向き合うことで、多様な連想を喚起する表現となっています。

○「組み立て式」彫刻

独創的な「組み立て式」の彫刻によって人のかたちを表現する黒沼さんの作品は、世界的に見ても珍しく、高さ二メートルを超える大作も制作されています。作品は、寄せ木と彫刻、組み立てと分解、着色と造形といった工程を行き来しながら、試行錯誤を重ねて生み出され、木彫の表現に多様な展開をもたらしています。

○見る・触れる・つくる体験

美術館主催のワークショップでは、一般の来館者を対象に、木彫制作の講師として指導を行っています。参加者は作品を鑑賞するだけでなく、実際に素材に触れ、自ら手を動かして制作に取り組みます。こうした体験を通して、彫刻や木の表現をより身近に感じるとともに、芸術への理解や関心を深める機会となっています。

○まとめ

黒沼さんの組み立て式彫刻は、仕上りの光沢が美しい福島県産の樺で制作されています。部材を組み立てることで、制作コストを抑えながら大きさを柔軟に設定でき、分解し

て運搬できる点も特長です。こうした利点は作品の幅を広げ、展示発表の可能性も広がっています。「作品は見るだけでなく、実際に触れ、知ることが大事」と黒沼さんは語ります。



木彫ワークショップにて熱心に指導する黒沼准教授



「組み立て式彫刻」は完成後も解体・組み立てが自在です。組み立ての様子を二次元コードより、是非ご覧ください！

県森連いわき共販における木材市況（1月分）

令和8年2月1日
福島県森林組合連合会

(単位：㎡当り千円)

樹種	素材				摘要
	長級 (m)	径級 (cm)	高値	低値	
スギ	4.00	9下	12.0	11.5	
		10~13	14.0	13.5	
		24上	14.1	13.5	
	3.65	16上			
		24上	11.5	10.3	
	3.00	9下	11.5	9.5	
		10~13	11.5	10.3	
		14~16	11.4	10.3	
		18~20	13.0	11.8	
	6.00	22上	13.5	12.0	
16~20		14.1	13.3		
2.00	16上	7.5	6.0		
ヒノキ	4.00	10~13	9.0	8.8	
		14~16	15.4	14.0	
		18~20	15.4	15.0	
		22上	15.7	15.2	
3.00	16~20	15.7	13.5		
アカマツ	4.80	18~22			
	4.00	18~22	10.5	10.0	
		24上	10.5	10.0	
	3.00	16~22	10.5	10.0	
		24上	10.5	10.0	

樹種	素材				摘要
	長級 (m)	径級 (cm)	高値	低値	
カラマツ	4.00	12下			
		13~14			
		16上			
クリ	4.00	16上	14.0	13.0	
	3.00	16上	13.0	12.0	
モミ	4.00	20上			

市況概要と市況展望	2月の共販日
<p>販売量は3,774㎡（前年同月比124%）でした。スギ3m柱材、中目材は、横ばいから若干値下がりに転じました。中目材は引き合いがありますが、柱材は不落物件が出ています。4.00m材はA材、B材とも需要が高く、活発に取り引きされました。先行き、この状況が続くと思われま。</p> <p>※小径材が不足しています。造材よろしくお願ひ致します。</p>	<p>6日(金)</p> <p>17日(火)</p> <p>27日(金)</p>

行事とお知らせ
<p>県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。</p> <p style="text-align: center;"> <input type="text" value="福島県森林組合連合会 木材市況"/> <input type="button" value="検索"/> </p>

いわき市北西部に位置する林道「永井川前線」は、いわき市三和町下永井地区と川前町川前地区を結ぶ、車道幅員四・〇～五・〇㍎、延長七、三四八㍎の一車線林道です。平成十七年度から工事を実施してきましたが、令和七年十月二十七日に全ての工事が完了し、全線が開通しました。着工から完成までの二一年間にはJ・R協議、保安林解除、治山施設移管、台風等数々の災害など、多くの課題や困難があり、それら乗り越えての開通となります。

当該林道の利用区域内では、これまでに造林三一㍎、間伐一一三㍎など、既に累計三四九㍎の森林整備が行われてきました。全線開通により、計画的な森林管理や木材輸送の効率化など林業振興に寄与するだけでなく、災害時の迂回路機能など、安全で安



永井川前線終点と磐越東線



最終年度に完成した区間



林道「永井川前線」の全線開通

福島県いわき農林事務所 掃部 康宏

心な生活環境の改善に貢献することが期待されます。近くには景勝地である夏井川溪谷、背戸岨廊もありま。お近くにお寄りの際はぜひご通。行ください。

工事の実施にあたっては、地域の行政区や土地所有者のみならず、多大なる御協力をいただきました。また、工事に携わったコンサルタント、施工業者のみならずにも多大なる御尽力をいただきました。この場をお借りして関係者のみならず厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

表紙の写真



「山里の仲良し夫婦」

第22回ふくしま森林・林業写真コンクール
特別賞（一般の部）
受賞者 小林正義さん（石川町）
撮影場所：矢祭町吉野平

コメント：秋の風を懐かしむように、作業者として暮らす技術に声かけながらよく撮らせて頂きました。山が荒廃して、不慣れな木を倒し、炭を焼き、飯の炊きかけにしているの事、色々と観察しました。炭窯に煙が立ち、又会いに行きたいと思えます。

発行人
飯沼 隆

陽光社印刷株式会社
（定価 一〇〇円）

編集

福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会

福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会

福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社

森林研究整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会

福島市中町五番一八号県林業会館内

（福島市中町五番一八号県林業会館内）

飯沼 隆

陽光社印刷株式会社

（定価 一〇〇円）

はなしの
ひろば

まあまあな暮らし

私は、筆者と同居しているめす猫キジトラのかんなです。夏目漱石先生の文学書「吾輩は猫である」の高いレベルの足元にもおよびませんが、二月二二日の「にゃんにゃんの日」に免じて、庶民猫の独り言と思ってもらえれば嬉しいです。

同居人が無類の猫好きで、もうすでに二匹の先住先輩猫がいましたが、二〇一〇年にご縁があつて家族になりました。まだ目も開かない三姉弟の私達の世話をしてくれて今日を迎えました。が、他の姉弟は、恋の季節にパートナーを求め旅に出てしまいましたし、先輩達も老衰のため二一歳で亡くなりました。先輩たちは、生存中もつと仲良くしたかったのですが、縄張りに強いプライドをもつ私達はお互いに必要以上に近づかず、いい距離感で暮らしました。自分の身は自分で守ることで。そんな今の私は、同居人をこんな風にもみつめて、猫で声で話しかけると、おやつがもらえるを知ったので、少し肥満体型ですが、声の可愛さとこのまなざしには自信があります。うまく暮らす術です。

猫の十六歳は、人間の歳でいうと約八〇歳のようなのですが、猫には、一年という区切りがないので、約五、八四〇日を生きてるといったほうが正しいでしょう。時々、共通の言葉があればいいのと思いますが、言葉があつたら災いにもなります。伝わらなかつたら、毛づくろいをして背中を丸めてふて寝と決め込んでいます。そんな寝姿にも同居人は「きれいな猫背だね」と言つてご満悦ですから、まあまあな暮らしです。

第一五三話（都）

お知らせコーナー

第40回ふくしま緑の写真コンクール表彰式開催

緑の素晴らしさや大切さを広めていくため、1985年に選定しました「ふくしま緑の百景」を中心に、豊かな自然を題材として募集を行った「第40回ふくしま緑の写真コンクール」の表彰式が、昨年12月6日(土)に福島民報社において行われました。

今回も、県内各地より幅広い年齢層の皆様から478点に及ぶご応募をいただきました。どの作品も、奥山から里山の森林や動植物、家族での身近な公園散策など、四季折々の素晴らしい一瞬を切り取られ、緑へ寄せる熱い想い、ふるさとへの深い慈しみを感じることでできる力作です。

特選及び金賞の受賞者及び作品は次のとおりです。また、銀賞、銅賞、入選、佳作まで全52点については、福島県森林・林業・緑化協会のホームページに掲載しております。下記二次元コードよりアクセスできますので、是非ご覧ください。

賞	氏名	住所	テーマ
特選	梅津 文子	福島市	天を衝く
	中込 隆	福島市	湖畔の朝
金賞	久能まち子	福島市	雨粒のネックレス
	梅津 直樹	福島市	吾妻のドラゴンアイ
	岩塚 昭広	いわき市	木漏れ日
	千田 春雄	二本松市	滝を彩る春

※上記含め全52作品については、当協会ホームページをご覧ください。



特選の表彰を受ける梅津さん



入賞作品ページ



特選「天を衝く」

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》



tamochi

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合



soyorin

林地残材用アタッチメント
グラップルフォーク

GS-90LJF/LJFV

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

- ・フォークが大きく開き、木質バイオマス生産現場での端材の集積に威力を発揮
- ・不要な石を効率良く振るい落とす、格子状のフォーク型トング
- ・手元のノブスイッチだけでグラップルの各操作が簡単・楽に可能

林地残材の集積に威力を発揮するフォーク型特殊グラップル

※本機は林地残材集積用です。掘削、地替え作業には使用しないでください

For the future with forest



イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



ISO 14001
JQA-EM4425
本社・工場



JAB
MS
CM009



(仙台支店) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699

(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1

(支店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州



東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ 林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1